

商工 News

ニュース

第748号

令和8年2月1日発行
(毎月1日発行 発行部数18,900部)

2026

2



CONTENTS

- 2 ダイレクト商談会 / 県青連60周年記念式典の開催ご案内 / 商工会ビジネスプラスカード
- 3 経営者の「モヤモヤ」相談室
- 4 未来を応援 / 令和7年分確定申告

商工会は経営支援を通じて
事業者の未来に貢献する

全国統一スローガン

「商工会は 行きます 聞きます 提案します」



▼施設外観

▲解体処理施設



▲キッチンカー

当社はジビエ解体処理施設の運営と、ジビエ商品の製造・販売を行っています。私は東京都出身ですが、可児市の企業で勤務していた頃に、趣味の登山がきっかけで狩猟と出会いました。狩猟の奥深さと初めて味わった猪肉の美味しさに衝撃を受け、「この体験を多くの人に届けたい」という思いが芽生えました。その後、異動で東京に戻っても気持ちは冷めず、「ジビエを仕事にしたい」という思いはますます強くなっていました。前職でご縁のあつた八百津町に候補地があつたことから移住を決め、準備を進める中で地域おこし協力隊の存在を知り、現在は隊員として活動しながら解体処理施設を運営しています。地元獵師さん達が

かすことなく活用ジャーキーも販売し、自然の恵みを余すことなく大切にしています。

また、キッチンカー事業も展開しており、猪肉スペイスカレーなど煮などのジビエ料理をイベントなどで提供し、気軽に味わっていただけます。都会の方にも届くブランドづくりを目指しています。都会の方



▲商品盛り合わせ

これから展望

害獣として捕獲された猪や鹿の多くは廃棄されているのが現状です。ジビエの利活用を活性化し、自然の恵みを無駄なく楽しむ仕組みをつくりたい。そして、人と自然、田舎と都会をゆるやかにつなぐ存在でありたい。そんな想いを胸に、これからも八百津町からジビエの魅力を発信していきます。(所属 八百津町商工会)

自然の恵みを、もっと
身近に

安心安全なジビエづくり

令和7年6月、八百津町に新設した解体処理施設は、厳しい基準を満たした「ぎふジビエ」認定施設です。岐阜の豊かな森で育った猪や鹿を一頭ずつ丁寧に解体・加工し、ス

ライス肉やソーセージ、ベーコンなど加工品にし、犬用ジャーキーも販売し、自然の恵みを余すことなく活用することを大切にしています。

施設の清潔感や商品の親しみやすさも意識しています。

八百津町商工会の支え

創業の際、八百津町商工会へ商品のブランディング構築やECサイトの開設について相談したところ、全国の第17回小規模事業者持続化補助金を活用する取り組みについてご提案いただき、申請に向け、経営計画書策定から補助事業計画の細部に至るまで、一緒に検討を重ねるなど、丁寧な支援をいただき無事採択されました。その後も販路開拓や町内事業者とのマッチングなどの支援を受けたり、八百津町商工会はいつも親身に相談にのつていただける、とても心強い存在です。

元気企業紹介

捌ききれない個体を引き取り、私自も狩猟を行いながら取り組んでいます。

QRコード

公式HP



Instagram

080-4051-1097

加茂郡八百津町伊岐津志
2839-12代表取締役 東川 陽平
株式会社けものみち